

あの流れる雲に

Am G Am G Am G Am G

ふと見上げた 夏の空から

F G し Am G Em Am G
この心 自由に憧れて 流れる雲に委ねるAm G Am G Am G Am G
まるで橋のように 空を流れゆくF G し Am G Em Am G
ここから見える 遠くの山 だんだん小さくなって溶けゆくF Dm C
届きそうで 届かないAm G Em C G
静かに浮かんでいるように 見えてもF Dm C Am
よく見ると輪郭を 変えながらG Em C Em
素早い、速うで 動いているAm G Am G Am G Am G
空の向こうへ あの流れる雲にDm Am C Am
ゆっくりと旅したいことを願ってDm Am
簡単ではないことをC G Am
さくらせてくれる

ふと見上げた 夏の空から

この想い 届くように 言えなかったことも雲に委ねる

まるで綿のように 空を流れゆく

やわらかな陽射し浴びて 揺らく輪郭を 脂でなめる

この指先の かすかな 湿りか

浮かぶ雲に 伝わる こと感じる

よく見ると 青空に 吸い込まれながら

絶え間なく 消えてゆく

空の向こうへ あの流れる雲に

こっそりこの願い 託したならば

この騒ぐ 胸の中

きつと届けてくれる

Capo. 0. 1-2IV Em

七夕を過ぎて

Em D Em B7 Em D C D Em

Em D C B7
いつもよりも夕ぐれの人G D C G D
その日は真夏のほじりだったEm C
改札口出たら笹飾りD G
願..事書いた短冊にEm C G D
誰かが書いた「くるま」Em D C Em
懐かしさがよぎる★ Em D
★ 晴れた夜空にモバイル当ててC D2 Em
カメラ越しに確かめるEm D
黒い雲の様に見えてるC D2 Em
天の川をまたぐ星 ★★

あれは杜の都にいた

その日は真夏が終わる頃だった

商店街歩くアーケードに

突き刺さるような飾り物

たくさんの折り鶴を

僕たちはくくった

★～★★

Em C G D Em D C Em
この日の幸せいつまで続くのか

晴れた夜空にモバイル当てて

南斗六星確かめる

銀河系の真ん中にある

ブラックホールの影を探す

Capo. 0 1-2nd Am

麦わら帽子

Am G Em G Am Am G Em G Am

Am G F C
乾いた道の上 黒く短く影Am G Em Am
見下ろす足元にてるてる坊主Am G F C
目の上に見えてる 麦わら帽子にAm G Em Am
時折ふく風と夏の香りがAm
心配事 一つもないG Em G Am
太陽に 包まれてから★ Am
忘れていた あの頃のG Em G Am
床がぬい時間 思い出す **

畑に向こうの 一つ南の道

帽子の底を下げ あごを上げて

黒目と下にして 遠くを見る

元気に綱を揺る 男の子がいる

悩み事 ほとしもなく

足取っし 軽く見える

★ 忘れていた あの頃の

自分の姿を映してる **

A E D A A E D A
あごれもなくした 麦わら帽子D A F#m E
ふく風に 持ってゆかれたい様D A E A
てっパン抑えた手に 感じる風

かすかな記憶の 遠くの町 帽子の影の上後ろからと

近寄る日傘の影が覆ってる 安心な香りに包まれている

(★～★★) (*～**)

Date. '25 6. 21

Xニまでたどり着いた

C G An F Dm C G G

C An F Dm G G C G

しぶきをあげながらこの湖

An 白い船はゆっくり滑ってゆく FG

C Em An C F Dm G
体を全て預けて 心は空を翔An G F G An
散策の終わりにして 疲れた足も投げだし

G

C G An F Em G
Xニまでたどり着いたF Dm C An F G C
この船でリターンする窓から感じる風

Date.

よく見ると操舵室の後ろの看板

このクルーズ船の引退を告げる

初めて乗ったのに もう二度と乗れることはない

クルーズはただの移動ではないのに

Xニまでたどり着いた

この船の終着点、冒険の終わり

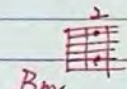
Capo. 0 オープンD

見えるものしか見ない、

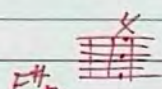
0 10 0 3 0 10 0 0 10 0 3 0 10 0

0 短い言葉で 5. たくさんしのこを伝える

0 あれこれと 5. 考えすぎて 5. わかりにくくなっていた 0



Bm



F#m

見えないものまで 見ようとすること

5. 見えるものしか 7. 見ないこと

Bm 使い分ける タイミングがある F#m

5. ああ本当に 7. かわかしい

0 最後には 5. 思うこと

5. やはり素直な 7. ことが 0 いいかも

努力して 追求して 考え深いことよりも

誰の目にも映るほど わかりやすいのがあること

見えないものまで 見ようとすること

見えるものしか 見ないこと

使い分ける タイミングがある

ああ本当に かわかしい

最後には たくさんしの

変態さそう こといいかも

ちがう

D Em GAD G D Em A7 D

D Em Em A7 D
そうだと ^{Em}思ってたのに ^{Em A7}こうだったD G Em A7 D F#7
ここでも ^Gやっぱり ^{Em A7}こうなのかBm D Em A7 Bm
リアリティショックというほどの ^{Em A7}事ではないけどD Bm Em A7 Bm
やはりこれは ^{Bm}思ってたことではないD Em Bm A7 D
こんなはずではなかったというのとD Em Bm A7 D
こういうものだと ^{Em Bm}いうのはメンタルが ^{A7}違うD Em Bm A7 D
それは自分の ^{Em Bm}覚悟の ^{A7}違いというけれどD Em Bm A7 D
実際に ^{Em Bm}起る出来事に ^{A7}ただ戸惑うD Em G A7 D
これは ^{Em G}頭の中で ^{A7}描いてきたことではないD Em G A7 D
なんとか切り替えて ^{Em G}きたえるレジリエンス

ここではそれができるはずだった

最後は根回し正りなかった

ワーカホリックというほどの ^{Em A7}事ではないけど

それでも無性に悔しい時がある

強いストレスをマイナスととらえるのと

プラスに変えてゆくのはメンタルが ^{Em A7}違うそれは自分の ^{Em Bm}気持ちの ^{A7}違いというけれど実際に ^{Em Bm}起る出来事に ^{A7}ただ戸惑うこれは ^{Em G}頭の中で ^{A7}描いてきたことではないなんとか切り替えて ^{Em G}きたえるレジリエンス

Cape. 5 1-マールA
Cape. 3 オープンD

D

目をふぶった瞬間に

An G F C
目をふぶった瞬間にF C G An
透き通る水面が広がるAn G F C
絵でしかみたことないところF C G An G
緑輝く御射鹿池がAn G
忘れかけていた頃にF C G
映し出される心象風景An G
本当に残っているF C G
右から左 白い馬がAn G F C
どうしてこんな色してるのかF C Dm G
この世のものと思えない、色An G F C
息を吞むような美しいF C G An
明るい緑 暗い緑

1-マール+オープンD

再び目をといたとき

緑の色が青に変わる

幻想的な景色が

怖いほどに背中ふるわす

ふとした瞬間に

映し出される心象風景

明るかった空の色が

暗い、紺に変わっていた

どうしてこんな色してるのか

この世のものと思えない、色

思わず眺めてしまいたくなる

暗い中に青く燃えている